

## 事業事前評価表

### 国際協力機構中南米部中米カリブ課

#### 1. 基本情報

- (1) 国名：ホンジュラス共和国
  - (2) プロジェクトサイト：フランシスコ・モラサン県テグシガルパ市
  - (3) 案件名：保健サーベイランス国立研究所建設計画 (Project for Construction of National Laboratory of Health Surveillance in the Republic of Honduras)
- G/A 締結日：当初 G/A は 2016 年 10 月 10 日締結。追加贈与 G/A は 2023 年 3 月 10 日締結。

#### 2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け  
ホンジュラス共和国（以下、「当国」という。）における 2015 年の 5 歳未満児死亡率は 20.4（出生千対、中南米地域平均 18）、妊産婦死亡率は 129（出生 10 万対、同地域平均 67）と、域内平均と比較し依然高い値である（出典：世銀世界開発指標）。非感染性疾患（死因の 61%を構成）に加え、HIV/エイズ（2012 年死因第 4 位。出典：WHO Global Health Observatory）、結核（2014 年有病率 43、人口 10 万対。出典：世銀世界開発指標）、更にはマラリアやリーシュマニア症、シャーガス病等の顧みられない熱帯病の問題も深刻であり、非感染性・感染性を問わず迅速かつ的確な診断と治療が求められている。

首都に位置する保健サーベイランス国立研究所（以下、「国立研究所」という。）は、159 の検査室から構成される全国検査ネットワークのトップレファランスラボとして、感染症等のサーベイランスの実施、全国からのレファランス検査実施、下部検査室に対する監督・技術指導、基準の制定、品質管理、人材育成等を行っている。しかし、国立研究所は施設が 3 カ所に点在しており、施設及び機材の老朽化が著しいため、迅速かつ効率的な検査の実施に支障となっている。

また、一部施設では部外者が容易に国立研究所にアクセスできる等、国際的なバイオセキュリティ・バイオセーフティ基準を満たしておらず、病原体の適切な封じ込めができていないことから、検査技師や周辺住民への感染リスクが存在している。WHO 憲章第 21 条に基づく国際保健規則 IHR (International Health Regulation) は、感染症等の国際的な健康危機に対応するための国際条約に準ずる拘束力を持つ規則であり、サーベイランスや緊急事態発生時の対応等について最低限備えておくべき能力として重要病原菌に対する診断能力などをコアキャパシティとして掲げているが、国立研究所は同コアキャパシティを満たしていない。同コアキャパシティを満たすためにも、分散している機能を集約し、安全かつ効率的に機能できる国立研究所の整備は急務であり、当国の「国家ビジョ

ン 2010-2038」では IHR を遵守する保健監視システムの強化を目標として掲げている。

このような背景の下、「保健サーベイランス国立研究所建設計画」（以下、「本事業」という。）は、国民の大半が頼る公的医療サービス網における検査・診断体制の強化を実現するため、WHO の定める国際基準を満たす国立研究所の建設及び関連機材を整備するものであり、ホンジュラス保健省においても優先度の高い事業として位置づけられている。

（２）保健セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け  
対ホンジュラス共和国 JICA 国別分析ペーパー（2020 年 3 月）において「地方開発」の重点課題の中で「質の高い社会サービスの普及」が位置付けられており、また、我が国の対ホンジュラス共和国事業展開計画の重点分野「質の高い社会サービスの普及」の中でも、「社会サービス強化プログラム」が位置付けられている。検査・診断体制の強化は、保健医療サービス改善に資するものであり、本事業はこれら分析、方針に合致する。なお、これまでの当該分野における支援実績として、無償資金協力「全国公衆衛生検査所機材整備計画」（2005 年）において国立研究所及び地域検査室に対する機材整備を行うとともに、技術協力「シャーガス病プロジェクト」（2003 年～2011 年）、技術協力「シャーガス病アドバイザー」（2012 年～2014 年）によりシャーガス病対策に係る支援を実施した。

なお、我が国は 2016 年に表明された「国際保健のための G7 伊勢志摩ビジョン」において公衆衛生上の緊急事態に対する予防と備えの強化にコミットしており、同年に策定された「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針」においても、途上国における IHR 徹底に向けた支援を掲げており、本事業はこれら方針に合致するものである。さらに、本事業は、SDGs のゴール 3（健康な生活の確保、万人の福祉の促進）に貢献し、JICA 世界保健医療イニシアティブや保健医療分野の課題別事業戦略（グローバルアジェンダ）が目指すユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）の達成に向けた取組に合致しており、特に「感染症対策・検査拠点強化」クラスターに関し、研究・警戒（検査）体制の強化に取り組む観点で合致している。当国において非効率的な検査が疾病に関する迅速な診断・治療を阻害しており、加えて、国際基準に満たない施設において検査が行われることで病原体を封じ込められておらず地元住民への感染リスクが存在するなどの深刻な問題も発生しており、無償資金協力にて本事業の実施を支援する必要性は高い。

（３）他の援助機関の対応

米国疾病管理予防センターは感染症及びインフルエンザ対策に関する技術協力を行っており、汎米保健機構（以下、「PAHO」という。）は感染症サーベイランスや情報システムに関する技術協力等を実施している。

### 3. 事業概要

#### (1) 事業概要

##### ① 事業の目的

本事業は、テグシガルパ市において、ホンジュラス共和国のトップレファランслаボである保健サーベイランス国立研究所の施設建設及び機材整備を実施することにより、安全かつ効率的に機能できる検査体制の構築を図り、もって当国の感染症等の診断能力の強化に寄与するもの。

##### ② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容：

【施設】検査棟（結核、マラリア、性感染症、細菌学、寄生虫学、シャーガス/リーシュマニア、細胞学、髄膜炎/肺炎、昆虫学、分子生物学、研修検査室、純水製造室、試薬・培地準備室等）、その他付属施設（浄化槽、受水槽・高架水槽等）延床面積計約 1,745m<sup>2</sup>

【機材】冷凍庫等 3 品目

イ) コンサルティング・サービスの内容：詳細設計、入札補助、施工・調達監理。

##### ③ 本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者（人口 136 人）：当研究所の検査所員の数

最終受益者（人口 10 百万人）：当国内の全人口

#### (2) 総事業費

総事業費 1,727 百万円

（概算協力額（日本側）：1,440 百万円、ホンジュラス共和国側：287 百万円）

①当初計画：829 百万円（概算協力額（日本側）：818 百万円、ホンジュラス共和国側：11 百万円）

②追加贈与分：898 百万円（概算協力額（日本側）：622 百万円、ホンジュラス共和国側：276 百万円）

#### (3) 事業実施スケジュール（協力期間）

2016 年 11 月～2024 年 10 月を予定（計 96 か月）。機材供用開始時（2024 年 10 月）をもって事業完成とする。

#### (4) 事業実施体制

1) 事業実施機関：保健サーベイランス国立研究所（Laboratorio Nacional de Vigilancia de la Salud）

2) 運営・維持管理機関: 保健サーベイランス国立研究所 (Laboratorio Nacional de Vigilancia de la Salud)

(5) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

- 1) 我が国の援助活動: 特になし。
- 2) 他援助機関等の援助活動: 特になし。

(6) 環境社会配慮

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類: C
- ② カテゴリ分類の根拠: 本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

(7) 横断的事項: 特になし。

(8) ジェンダー分類: 対象外

<活動内容/分類理由> 案件の性質上ジェンダー視点に立った具体的な活動内容の実施可能性が見込めないことから「ジェンダー主流化ニーズ調査・分析」は実施しないと判断したため。

(9) その他特記事項: 特になし。

#### 4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) アウトカム (運用・効果指標)

指標名	基準値 (2015年実績値)	目標値 (2027年) 【事業完成3年後】
百日咳確定検査に係る検査時間の短縮 (日)	8日 (培養検査)	1日 (PCR検査*)
コレラ菌確定検査に係る検査時間の短縮 (日)	5日 (培養検査)	1日 (PCR検査)
コンベンショナル PCR※検査数 (検査数/月) ※リアルタイムを含まない従来型 PCR 検査	165件	250件 (年間を通じた月平均)

\* PCR 検査: ウイルスの遺伝子を専用の薬液を用いて増幅させ、検出させる検査方法

(2) 定性的効果

スタッフの動線管理によるバイオセキュリティの向上及び陰圧機能を持った検査室の建設により安全性を向上させることによるバイオセーフティの向上、

更には検査部門の集約による検査部門間の連携強化及び運営の効率化。

## 5. 前提条件・外部条件

### (1) 前提条件

プロジェクト目標達成のため、先方負担事項である管理棟・発電機棟建設及び機材整備がタイムリーに実施される。使用可能な機材の移設に係る保健省の予算措置が行われる。

### (2) 外部条件

治安情勢が悪化しない。(テグシガルパ市は、2022年7月時点で、外務省渡航情報で「レベル2：不要不急の渡航中止」に位置付けられている。)

## 6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

ベトナム社会主義共和国「国立衛生疫学研究所高度安全性実験室整備計画」の事後評価結果等では、持続性担保のために無償資金協力によるインフラ整備とソフト面の支援の連携の重要性が教訓として導かれている。本事業においても、シニア海外ボランティア等による支援の必要性を検討するとともに、関連する課題別研修への国立研究所職員の参加等を図ることにより、検査の安全と質の確保、施設・機材の長期的活用を目指す。

## 7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、テグシガルパ市において、ホンジュラス共和国のトップレファランスタボである保健サーベイランス国立研究所の施設建設・機材整備を通じて、安全かつ効率的に機能できる検査体制の構築に資するものであり、SDGs のゴール3「健康な生活の確保、万人の福祉の促進」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

## 8. 今後の評価計画

### (1) 今後の評価に用いる指標

4. のとおり。

### (2) 今後の評価スケジュール

事業完成3年後 事後評価

以上

別添資料 保健サーベイランス国立研究所建設計画 地図

別添資料

保健サーベイランス国立研究所建設計画 地図

